

< 目次 >

1. 事務局より
2. 前年度編集責任より
3. 新編集委員より
4. 本年度編集責任より
5. 例会予定
6. 談話会予定
7. 各地の研究会だより
8. メーリングリスト frenchling からのお知らせ
9. 2021 年度収支決算報告
10. 編集後記

1. 事務局より

2022 年度より岸本聖子（愛知県立大学）と高橋克欣（大阪大学）が事務局の運営を担当しております。今年度より事務局の住所を青山学院大学から大阪大学に移動させたことのお知らせいたします。事務局の新住所および新メールアドレスについては『フランス語学研究』の奥付、学会ホームページ等でご確認ください。念のため以下にも連絡先とメールアドレスを記します。

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-8

大阪大学大学院人文学研究科

高橋克欣研究室内

日本フランス語学会事務局

belf-bureau@ml.office.osaka-u.ac.jp

◆会費

会費の徴収は数年分をまとめてお振込みになるよりも、同封の振込用紙を使って期日までに毎年 1 年分をお振込みいただくようお願いいたします。お忙しい時期とは思いますが、学会の円滑な運営のために是非ともご協力をお願いいたします。なお 3 年以上会費の納入が滞っている場合は会員資格が停止され、『フランス語学研究』は送付されなくなりますのでご注意ください。

◆年間テーマ

2022 年度のテーマは、2021 年度と同様「フランス語の語用論」です。機関誌『フランス語学研究』第 57 号（2023 年 6 月刊行予定）では、本テーマの特集論文を募集します。優れた論文が投稿されることを期待しています。なお、それ以外のテーマの論文も従来通り募集していますので、こちらも奮ってご投稿ください。

◆投稿規程

第 51 号から投稿方法が変わりました。原稿は 11 月末日必着で、事務局宛にメールでご投稿ください。その際「本文原稿ファイル」とは別に「表紙ファイル」を作成してお送りくださるようお願いいたします。フォーマットは学会ホームページにある専用フォーマットをご利用ください。なお郵送や編集委員による持ち込みは受け付けられません。

◆機関誌バックナンバーのアーカイブ化について

2022 年 4 月現在、創刊号から第 51 号までが J-Stage で公開されています。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/belf-char/ja>

刊行後 3 年を経過した号から J-Stage にて順次無料公開しています。会員の皆様におかれましては、バックナンバーとしてご活用いただけましたら幸いです。

(岸本聖子・高橋克欣)

2. 前年度編集責任より

編集責任を務めたこの一年間、前編集責任の秋廣尚恵さんと前々編集責任の奥田智樹さんは、副編集責任として、分からないことだらけの私を色々助けてくださいました。また、編集委員の先生方は、毎回長時間にわたってしまった編集会議に辛抱強くお付き合いくださいました。色々ご意見を述べてくださっただけでなく、査読と校正にもアクティブに参加してくださいました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

BELF56 号の編集後記にも少し書いたことですが、2021 年度の編集委員会では、編集・校正方法をいくつか見直すことができました。まず、主に参考文献の著者名を表記するのに用いてきたスモールキャピタルを

廃止しました。スモールキャピタルに変えるべき箇所の見落としがないかどうかを一つ一つ確認する労力は校正作業の中で特に大きかったため、それに携わる委員の負担を少しでも減らすためです。また、校正作業において、今まで校正刷りをプリントアウトして、それに手書きで赤字を入れて、それをスキャンするという作業から、1つのPDFファイルを執筆者→校閲者→編集責任者の順に回して、それぞれが修正箇所を直接ファイルに書き込むという方式を採用することにしました。初めての試みで、うまくいくか多少の不安はあったのですが、幸い大きな問題なく校正作業を終えることができました。作業時間もかなり短縮されたと思います。

個人的には、学術雑誌であるBELFにとって最も重要なのは、何よりも掲載される原稿の質であり、それを担保するためにより綿密な査読ができる体制を整えることだと思っています。BELF編集委員も、勤務大学での教育・研究活動および年々増加する学内業務の合間を縫って編集作業に携わっていますので、査読体制は今まで以上に充実させつつ、編集・校正作業については今後も簡略化できるところは積極的に簡略化していくのがよいと思います。

編集責任として反省すべき点は数多くあります。列挙すればきりがありませんが、1つ挙げるとすれば、「論評」、「紹介」、「展望」、「文献案内」といったジャンルの原稿の投稿を促すことができなかつたことです。新編集責任の安齋有紀さんの指揮の下で編集が進められるBELF57号の紙面を充実させるためにも、以上のジャンルへの投稿を積極的にお願いするとともに、昨年度からの年間テーマである「フランス語の語用論」に沿った特集論文の投稿もお待ちしております。また、「フランス語研究促進プログラム」も、学会活動を活発にするために重要ですので、こちらへの応募もお待ちしております。

2022年より、事務局が東京から大阪へ移転しました。事務局のメールアドレスも変更になりましたのでご注意ください。今まで事務局業務をお務めくださった近藤野里さんと伊藤達也さん、ありがとうございました。今年度より、岸本聖子さんと高橋克欣さんに新事務局をお務めいただきます。これからどうぞよろしくお願ひいたします。

最後に、今まで編集委員をお務めくださった秋廣尚恵さんと金子真さんが、編集委員をお引きになり、新たな編集委員として古賀健太郎さんをお迎えすることになりました。

フランス語学会は以上のような新体制で活動して参ります。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

(芦野文武)

3. 新編集委員より

◆古賀健太郎（福岡大学）

今年度より編集委員を務めさせていただくことになりました。フランス語学会に初めてお世話になったのは、学部を卒業して間もない頃のことでした。10月の例会で発表しないかご提案をいただいて、事の重大さをよく分からぬまま首を縦に振ってしまったのが、今思えば致命的なミスでした。結局、深く理解した訳でもない理論に飛びついてとんでもない内容の発表をし、会場の皆様を困惑させてしまったことを覚えています。それにもかかわらず、例会後の宴席では先生方がいろいろなアドバイスをくださいました。発表した内容は一刻も早く忘れ去りたいと思いましたが、何も知らない私のような者を皆様が温かく受け入れてくださったことは忘れずにいようと思いました。あれから13年経ちますが、その間にボルドー・モンテーニュ大学（当時はボルドー第3大学でした）とパリ第3大学への留学を挟みつつ、おかげさまでフランス語学に関わり続けることができています。自身の専門とするフランス語の語形成については、国内ではどちらかという少数派な分野ですが、続けていくことで少しでも裾野を広げられたらと思っているところです。

幸いにも昨年度より福岡で勤める機会をいただき、フランス語学に関する講義やゼミを担当できるありがたさを実感しております。それと同時に、自分の勉強がまだまだ足りていないことに不甲斐なさを感じることも多いです。この度編集委員のお声がけをいただいたのも、もっと勉強せよという啓示のようなものだと思います。お世話になっているフランス語学会に少しでも貢献できるように、精進してまいる所存です。どうぞよろしくお願ひ致します。

4. 本年度編集責任より

2022年度 BELF 57号の編集責任をつとめることになりました。2017年に新編集委員としてニューズレターでご挨拶させていただいてから5年が経ち、今回この原稿を書くにあたり当時の文章を読み返したところです。自分の研究活動の出発点であり、現在も大切な拠点であるフランス語学会に、今年度は編集責任という立場で貢献できれば幸いです。

私は数年前から *Genre bref dans l'espace public* という研究グループで、公共空間における音声アナウンスの特徴について研究しています。このグループへの参加は、大学院時代の指導教授であり BELF の編集委員を長年つとめていらっしゃる France Dhome 氏をはじめ、本会に所属している研究者、さらに留学していたパリ第3大学の研究者と交流できる貴重な機会となっています。この2年間はフランスで調査をすることができませんでしたが、2ヶ月に一度パリ第3大学で開かれる同グループの研究会に毎回オンラインで参加できたことは、私にとって大変贅沢なことで大いに刺激を受けました。今年の10月末には同グループによるシンポジウムが青山学院大学で開催されます。「à distance」ではなく、久しぶりに日本とフランスのメンバーが「en présentiel」で集えるよう祈るばかりです。

2020年度以降、授業はもちろんのこと会議や研究会もオンラインでの実施が定着してきましたが、今年度は様々な活動において対面形式での実施が再開されています。本会でも4月の例会はハイフレックス形式で開催されました。会場の参加人数は多くはありませんでしたが、久しぶりに発表者と同じフロアで議論が展開される熱気を感じました。オンライン形式は全国各地で開かれる会に参加できること、また開催側としても全国から多くの方にご参加いただけるという利点があり、実際に活発な議論が行われています。しかしながら、特にこれから初めて発表をする方には、ぜひ参加者と直接対話する「空間」を可能な限り経験していただきたいと思っています。

今年度も例会、シンポジウム、談話会を中心に学会活動を進めてまいります。皆さまの積極的なご参加と、論文・研究ノートなどへの投稿をお待ちしています。

さらに、海外での研究活動報告、国際学会・講演会の報告なども寄稿していただければ幸いです。また、本会では「研究促進プログラム」として会員の皆さまからの研究企画を募集しています。グループでの研究を通して交流の機会が益々広がっていきますよう奮ってご応募下さい。

それでは、一年間どうぞよろしくお願いたします。
(安齋有紀)

5. 例会予定

2022年度例会は4月、6月、9月、12月の4回開催されます。例会案内はホームページによるほか、メーリングリスト frenchling でも配信しています。例会はフランス語学会の会員以外の方でも、来聴することができます。入場も無料です。新型コロナが完全に終息していない中で、オンライン形式やハイフレックス形式での開催となる場合には、事前に参加申込が必要になることがございます。例会案内をよく御覧ください。みなさまのご参加をお待ちしております。

発表については、フランス語学会の会員の方であれば、どなたでも発表することができます。特に事前審査はなく、申込順に発表が決まります。若手研究者からベテラン研究者までが集まり、研究交流のできるよい機会でもあります。研究成果を業績として公表したい、あるいは学会誌『フランス語学研究』への投稿を検討している方はどうぞ奮ってご参加ください。

発表のご希望やその他例会に関するお問い合わせ：

日本フランス語学会例会運営担当

reikai(a)list.waseda.jp

※ (a)を@に置き換えてください。

以下はニューズレター編集段階の4月30日現在の予定です。最新の予定は学会ホームページで確認してください。

第338回例会 2022年4月16日(土) 15:00-18:00

会場：Zoom または青山学院大学（青山キャンパス）

(1) 國末薫（東京外国語大学大学院）

「y compris の構文化—1500年代から2000年代までの通時的分析を中心に—」

司会：フランス・ドルヌ（青山学院大学）

第 339 回例会 2022 年 6 月 18 日(土) 15:00-18:00

会場：Zoom または名古屋外国語大学

(1) 発表者：未定

(2) 発表者：未定

司会：伊藤達也（名古屋外国語大学）

第 340 回例会 2022 年 9 月 24 日(土) 15:00-18:00

会場：Zoom または京都大学

(1) 宮腰駿（筑波大学大学院）

「副詞 *personnellement* と前置詞句 *en personne* の意味構造と機能」

(2) 発表者：未定

司会：守田貴弘（京都大学）

第 341 回例会 2022 年 12 月 3 日(土) 15:00-18:00

会場：Zoom または慶應義塾大学

(1) 発表者：未定

(2) 発表者：未定

司会：芦野文武（慶應義塾大学）

6. 談話会予定

2022 年度談話会を以下の要領で開催いたします。図像、心象、表象など様々な「イメージ」と「ことば」の関係をめぐり、異なる視点からの報告そして討論をおこないます。

開催日時：10 月 1 日（土）9 時 30 分～12 時 30 分

開催形式：Zoom によるオンライン開催

テーマ：「イメージとことば」（仮）

パネリスト：

・寺田寅彦（東京大学）

「英語教科書の挿絵が語るもの」（仮）

・出原健一（滋賀大学）

「自由間接話法とマンガのコマ構成」（仮）

・高馬京子（明治大学）

「モード（服飾流行）を構築、伝達するメディア言説」（仮）

（談話会世話人：須藤佳子・安齋有紀）

7. 各地の研究会だより

◆関西フランス語研究会

関西の大学院生と教員が中心になって研究会を開いています。

会場は主に関西大学千里山キャンパスです。昨年度は、感染症拡大の影響か、発表者の希望がなく、開催されませんでした。今後はオンライン開催も含めて、継続してゆく所存です。

この研究会では、論文や学会発表をひかえる人がその準備のために発表したり、論文を完成したり学会発表を終えた人がその内容を紹介したりしています。形式にこだわらず、気軽に意見・情報の交換ができる集まりです。また、新刊書や論文の紹介、国内外の新しい研究の動向についての紹介や解説なども歓迎します。発表を希望される方は、以下のアドレスまで気軽にご連絡ください。

大久保朝憲：tomonori@kansai-u.ac.jp

高橋克欣：k_takahashi@lang.osaka-u.ac.jp

（大久保朝憲）

◆東京フランス語学研究会

東京フランス語学研究会は、大学院生など、若手を中心としたフランス語学研究者の気楽な研究発表、議論、交流の場です。今春で創設から 10 周年をむかえました。平素のご協力に感謝申し上げます。日本フランス語学会と直接の関係はありませんが、多くのかたがたに参会していただきやすいよう、フランス語学会の例会が東京でひらかれる日で、可能な場合は、同じ会場で時間をずらして開催することがあります。

発表資格、会費などの制度は設けませんので、関心のあるかたはどなたでも自由に参会、発表していただけます。発表は、フランス語（学）に関係することであれば、どのようなテーマでもかまいません。また、完成された内容である必要もありません。学会発表の前段階にあたるような習作的な発表や、先行研究にたいする論評といった形の発表も歓迎します。昨年度のニューズレターで既報分以降は、つぎのような発表がありました。

第 51 回研究会

日時：2021年6月12日(土)14時から17時

実施方法：オンライン

(1) 発表者：宮腰駿（筑波大学学生）

「副詞 *personnellement* の用法についての考察」

(2) 発表者：杉浦黎（東京大学大学院）

「フランス・アルザス地域におけるアルザス語を取り巻く状況：ストラスブールの言語景観と聞き取り調査からの考察」

第 52 回研究会

日時：2021年11月20日(土)14時から17時

実施方法：オンライン

(1) 発表者：小山美穂（青山学院大学大学院）

「*espérer* と *souhaiter* の違いについての一考察ー前置詞の現れ方に注目してー」

(2) 発表者：谷澤まどか（Sorbonne Nouvelle 大学大学院）

「発話の内部に現れる談話標識 *justement* について」

第 53 回研究会

日時：2022年4月16日(土)13時から14時30分

実施方法：オンライン（質疑応答では青山学院大学17号館17403教室においてハイフレックス形式も併用）

発表者：蔣晴（大阪大学大学院）

「日本人学習者におけるフランス語疑問文のイントネーションについて」

今年度の第1回にあたる第53回研究会では、質疑応答には初めてハイフレックス形式を取り入れましたが、発表はオンラインで行われ、フランスからの参会者にも議論に参加いただくこともできました。今後も、発表者の希望も踏まえつつ、こうしたオンライン開催のメリットを活かしていきたいと考えています。

今年度の2回目の発表者は決定済みですが、3回目の発表者未決定ですので、国内各地はもとより、海外にお住いの方にも積極的に発表していただき、また議論に参加していただきたいと考えています。詳細は決まりましたらホームページに掲出のほか、メーリングリスト *frenchling* でもお知らせを配信します。

第 54 回研究会

日時：2022年6月11日(土)14時から17時

実施方法：オンライン（予定）

(1) 発表者：小山美穂（青山学院大学大学院）

「動詞 *espérer* の用法に関する一考察（仮題）」

(2) 発表者：宮腰駿（筑波大学大学院）

「前置詞句 *en personne* の用法についての考察（仮題）」

第 55 回研究会

日時：2022年11月5日(土)14時から17時

実施方法：未定

(1) 発表者：未定

(2) 発表者：未定

発表を希望なさるかたは、下記ホームページの「お問い合わせ」の項目から世話人あてにご連絡ください。最新の予定については、ホームページの「今年度の研究会」の項目でご確認ください。

東京フランス語学研究会ホームページ：

<http://lftky.jimdo.com/>

（渡邊淳也・塩田明子・金子真）

8. メーリングリスト *frenchling* からのお知らせ

frenchling はフランス語学関係の情報交換を目的とした、当日本フランス語学会の公式メーリングリストです。フランス語学関係の研究会や講演会といった催事の告知、文献の探索、あるいはフランス語そのものについての質問、疑問、そして議論に活用していただくほか、フランス語学会の公式行事の案内なども配信されます。当学会の公式メーリングリストという性格上、特定の政治的メッセージを含むもの、営利的な活動、アルバイト募集等の研究・教育と関係のないアナウンスなどはご遠慮いただけますようお願いいたします。なお、フランス語関係の教員の募集に関する情報は流していただいて全く差し支えありません。フランス語の研究や教育に従事している我々は、フランス語に関して日々新しい発見や疑問を持つことも多いかと思いますが、そのような発見や疑問を共有するためにもこのメーリングリストを利用していただければと

思います。学生さんたちも含め、皆さんがもっと気軽に利用していただければ我々としても管理のしがいがあります。

frenchling は Google グループサービスを利用して運営しています。新規の登録、アドレス変更、あるいは退会の場合は直接、以下の管理グループのアドレスまでご連絡ください。メンバー以外の方に登録を勧められる場合も、同じアドレスをお伝えください。

frenchling 管理グループアドレス：
g-frenchlingowners@googlegroups.com

日本フランス語学会の公式メーリングリストである frenchling を、ますますご活用いただければ幸いです。
(frenchling 担当委員)

9. 2021 年度収支決算報告 (*)

収入の部	(単位 円)
会費	724,000
機関誌売上金	91,000
広告収入	60,000
預金利息	273
小計	875,273
前年度繰越金	3,059,245
計	3,934,518
支出の部	
BELF55 号印刷代金	427,114
BELF56 号編集実費	0
ニューズレター印刷代金	23,326
発送費・通信費	69,505
特別発表(講演)謝金・交通費	120,000
事務消耗品費	8,289
振込手数料	30,138
ホームページ管理費	7,454
言語学系学会連合年会費	10,000
小計	695,826
次年度繰越金	3,238,692
計	3,934,518

次年度繰越金の内訳は以下のとおり

銀行預金 (三井住友銀行普通預金)	463,659
(三井住友銀行定期預金)	2,008,525
郵便貯金 (普通)	38,884
(振替)	722,706
現金	4,918
計	3,238,692

(*) 2022 年 3 月 31 日現在の収支決算報告。6 月に開催される編集委員会で会計報告と監査報告がなされ、審議のうえ承認の手続きがとられる。

〒150-8366

東京都渋谷区渋谷 4-4-25

青山学院大学文学部フランス文学科

近藤野里研究室内

日本フランス語学会

10. 編集後記

今年度から木田剛さんの後任として、ニューズレターの編集を担当させていただくことになりました。1993 年に第 1 号が刊行されたこのニューズレターは、今年、第 30 号という節目の年を迎えます。今回この仕事を仰せつかるにあたって、バックナンバーを一通り読み返してみても、日本フランス語学会のその時代ごとの「今」を伝える情報媒体として、BELF とは異なる存在意義を持ち続けてきたことを実感しました。今年度は時間的な制約もあつて、最小限の情報しか掲載することができませんでした。コロナ明けが期待される昨今にあつて、今後は「海外情報」なども復活させ、紙面をさらに充実させることにより、学会活動を盛り上げるための一助となればと考えております。皆様には BELF と併せてご活用いただけますよう、よろしく願いいたします。

(奥田智樹)

♪ ニューズレターは、今年度号をもって紙媒体を廃止し、来年度号からは BELF の刊行と同時に日本フランス語学会のホームページに掲載する形を取らせていただきます。バックナンバーは、日本フランス語学会のホームページで読むことができます。

<http://www.sjlf.org/>